

「心の中に生き続ける貴方」

長沼 繁代（茨城県稲敷郡阿見町・七十六歳）

六月が来るたびに、あの激動の瞬間が思い出される。貴方が逝って、三回忌。夜、夢で会ったね。先月、三回忌の法要を済ませ、帰宅途中、車の前方の青い空に白い雲三つ。

三十一歳で戦死したお父さん、九十五歳まで一人で貴方を育ててくれたお母さん、そして、七十七歳で千の風に乗ってしまった貴方。親子三人揃った笑顔が見えた気がした。

貴方とは、五十余年も苦楽を共にしたのに、消えてしまった悲しみは誰にもわからない。思い出しては涙を流し、まわりから優しい言葉をかけられては涙を流していた。いつまでも悲しい顔をしていたら、貴方に

「なんでいつまで涙流しているんだ。いつものテキパキしたひまわりお母さんでいろよ」

と、気合いを入れられた気がした。

貴方は、余命いくばくもない癌の宣告を受けて、痛さと苦しみの連続だったね。それなのに、一時退院した時に、息子にトラクターの使い方を教えていたね。

貴方がいた頃は、畑は見向きもせず、トラクターも耕運機も動かすこともしなかったのに。あの時一度だけ教えてもらっただけではで
きないだろうと思っていたので、

「畑やらないなら、機械全部処分していいよ。」

と言ったら息子は、

「俺やるよ。お父さんが残してくれた機械だから、処分しないよ。」
一度しか教えてもらわなくてもできるんだ。

「貴方、大空から見ているかい。あの畑を耕して、ナス、きゅうり、じ
やがいも、ネギ等たくさん野菜を作っているよ。」

貴方も高いところから、「なかなかやるもんだ」と、びっくりして見て
いるでしょう。

貴方は、黄泉の国で三人でくらしているだろうが、私はまだ逝かな
いよ。迎えに来ないでね。その代わり私達を見守って欲しい。

雨降る日の命日、後輩が家の仏前に会いに来てくれたが、貴方は
お墓へ戻っていたの。

その夜、

「一杯献上 懐かしむ

お流れ待ちて 降る涙雨

返盃は 無いと承知で つぐ酒で

思い出探す 安らぎの時」

というメールが届いた。翌日、お墓へ行くとグラスについだビールと瓶の残りのビールがあった。「久しぶりのビール美味しかったよ」と言っている声が聞こえた。貴方は、家族も仲間も大事にし、尊敬されていたんだ。

いつまでも忘れないから。ありがとう。